



「行けないと思ってた…」

夏の終わり、宮城県亘理町立逢隈中学校の3年生100人が横浜を訪れました。大震災の影響で、行けないかもしれないと思っていた修学旅行。14、15歳の生徒たちは、経験した苦労も気取られない笑顔で記念写真にピースサインを向けました。
(遠藤 綾乃)

参加型大学進学相談会
大学進学フェスタ2011
 ●パンフイコ横浜 ●中3~高校生・保護者対象
9/25 (日) 詳しくは本紙12面をご覧ください!

かなった修学旅行

宮城で被災の中学生たち、横浜へ



たくさん買ったおみやげの袋を手に、田口さん(後列右から2人目)たち逢隈中の生徒は笑顔で記念写真に納まった
—横浜中華街

8月25日、蒸し暑い山下公園。「新しい靴、靴ずれが痛いよ」「先生、のど渇いたよ」。氷川丸の見学を終えて、土生なが子先生(49)が目を細めました。「わがままも言うし、無邪気で素朴な生徒たちなんです」

ただ3月11日、町を襲った震度6強の揺れと津波はその生活を一変させました。水道が止まり、電気が消えた家、街。学校は避難所になりました。住民らが身を寄せ合い、先生たちは交代で泊まり込みました。

1カ月後、町は避難所と学校を整理し、逢隈中は津波で1階が水没した荒浜中を受け入れました。文具、靴、ジャージ。荒浜中のため送られてきた支援物資の仕分けを、生徒たちも手伝いました。

始業式が開けたのは4月25日。修学旅行の出発日は過ぎていました。「もう行けないの、とは、先生たちに聞けなかった」。修学旅行実行委員長の田口綾香さん(14)は思い返します。津波で家族を亡くした同級生もいる。「それに、荒浜中の子たちはもつと被害を受けたから」

「生徒たちは普段、ほとんど震災の話をしません。きつと周りに気をつかっているのだと、土生先生は考えます。水道が止まっていたときはトイレの水をくみに、山の沢まで歩いた生徒たち。「春休みが明けてみたら、何だか大人になっていました」

修学旅行の準備が再開すると、田口さんたち実行委員は最初から計画を練り直しました。

山下公園からマリントワ

「震災のとき、ボランティアの人が作ってくれたおにぎりをみんなで分け合っ

て食べて、『日本人っていなあ』って思ったんです。

「山手、横浜税関を回って中華街へ。案内役はNPO法人「横浜ステイガイド協会」の市民ガイドたち。及川洋志校長(56)は「一度の、中学校の修学旅行。何とか行かせてあげたかった。たくさんの善意に支えられたことを忘れないでほしい」と生徒に願います。

何でもない毎日は、本当にぜいたくだったんだって」と田口さん。だけど、「だ

けどやっぱり、修学旅行ができてよかった。」

人気の韓流雑貨店で友達の手招きしました。「ねえ早く。先行っちゃうよ。呼ぶ声の方へ、田口さんは笑顔で駆けていきます。」

ふるさと通信員

QRコード

投稿待ってます

学校や家庭、近所などで見つけた面白いこと、出来事などを写真に撮り、100文字以内の文章(記事)を書いてメールで投稿しよう。

①携帯電話でQRコードを読み取る ②空メールを送る ③返送されたメールから引用返信を選ぶ ④写真を添付し、文章とプロフィール(氏名、学校名、学年、電話番号)を書いて送信すれば、投稿完了。10代まで。

返信メールが来ない場合はedu@kanagawa-np.co.jpを受信できるように設定してください。

人の嫌がることや、うそはやめよう。採用の場合、保護者の方に確認の電話をします。紙面に載った人には、特製の「ふるさと通信員証」を贈ります。

問い合わせは、☎045(227)0125。

発見! 金色のアリ

厚木市立上荻野小1年 奥野 梓菜

8月29日、通学路のどちゆうにある近所の木の下で私とお姉ちゃんとお母さんとで、金色のアリを見つけたよ! 黒いアリさんと、同じおうち(巣)に住んでいたよ!

(小さいけれど、目をこらすと見えるよ=「猫」)

こんにちは、「猫」です。まだ暑い日が続くね。最近、読者の皆さんから問い合わせが寄せられました。「『猫』の名前がなかなか決まらないけど、いつ決まるのですか?」って。

皆さんがすてきな名前をたくさん応募してくれて、うれしくて、「今年中に決めればいいかなあ」って考えていたんだよ。

これまでに届いたアイデアをいくつか紹介するね。

まず、「コニヤン」。着ている服が名探偵コナンみたいだからだって! ふいふい。「ねぼうクン」。いつものんびり寝ているからって。ほかに「ぐ~ちゃん」「まる」「かやねこ」「かなみん」...

実物よりかわいいイラストを描いてくれた人もいました。感激! ありがとう。引き続き、名前を募集したいと思います。これからも応募してね!

たくさん応募ありがとう 6

横浜の福本花織さん(12)が描いてくれたイラスト

